

科目名 成人看護学実習(クリティカルケア)	配当時期 3年次	講義担当者
時間割表記名 成人看護学実習(クリティカルケア)	単位数 2単位 時間数 90時間(12日間)	佐々木 圭一
事前学習内容 実習要項に準ずる		
科目全体のねらい・授業目標 【実習目的】 身体の侵襲によって生じた生体反応を捉え、生命を維持するための援助と患者を取り巻く家族やチームでの関わりに応じた適切な看護が実践できる。 【実習目標】 1. 生命の危機的状態にある患者の経過および予測される問題を理解できる。 2. 生命の危機的状態にある患者および家族の心理的・社会的特徴を理解できる。 3. 患者及び家族の置かれている状況に応じた援助が実践できる。 4. 生命の危機的状態にある患者の早期回復に向けた援助を実践できる。 5. 生命の危機的状況にある患者の生活を整えるための援助を 理解 できる。 6. 継続看護の必要性を理解し、他部門・チーム間との連携について理解できる。 7. 保健・医療・福祉チームの一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。		
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。 DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。 DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。 DP6. 専門職業人としての責任を自覚し、広い視野にたつて物事を考え、自己研鑽することができる。		
実習の流れ 生命の危機的 状態 とは、健康状態に急激な変化があり、生体がその変化に適応するために様々な反応を起こしている状態である。急激な変化に伴い患者には大きな生体侵襲が引き起こされ、生命活動を維持していく分岐点となる。本実習では、発達段階に応じた患者の理解を基に、生体反応や生命に及ぼす潜在的・顕在的健康問題の理解を深め、身体機能の安定や合併症の予防、身体的・心理的苦痛の緩和、そして家族の抱える問題について ICU、救命救急センターで受け持ち患者の看護実践と見学実習を通して学ぶ。 また、生命の危機的状態に対応した看護では、限られた情報をもとに、変化を捉える観察力、短時間での状況判断、曖昧な状況から問題を特定することを 2 日間の救急外来で学び看護を実践する過程で変化する患者の状態に応じた優先度を考え、看護を実践する過程を深める。		
評価 ルーブリックに沿って評価する。		

使用するテキスト

①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院

②系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院

③系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院

他 既習のテキストを活用する